

## [005]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/6794439>

---

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 5, 2023-07-13. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



## 編集後記

工学研究院附属環境工学研究教育センターは発足から 5 年が経過いたしました。本センターでは、各研究ハブ内の各研究ユニットが掲げる研究課題の時限が 5 年であるため、参画研究室・教員の入れ替わりや研究課題の更新など 1 つの大きな節目を迎えましたが、それをまとめる研究活動報告第 5 号を発行できたことを嬉しく思います。

この 5 年の間には、コロナ前・コロナ禍・ウィズコロナ/ポストコロナといった我々の研究・教育活動に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症の様々なステージが含まれました。しかし、2023 年 5 月 8 日には、新型コロナウイルスは感染症法上の位置づけが 2 類から 5 類へと引き下げられたり、日本入国時の水際対策がなくなったりと、これまで制限されていたグローバルな往来を含む本センターの研究・教育活動が戻ることを期待されます。自身も 3 年近く不可能であった海外出張が可能となり、慌ただしい日々が戻りつつあるところですが、本報告書内にもコロナ禍の制限を乗り越えた皆様の活動の成果が多々、見受けられることに力強さを感じます。移動時間ゼロ、旅費不要の交流も魅力的ですが、現地に出向いてこそ繋がる縁や見つかる新たな発見・理解が多くあること、本センターが研究対象としている事象には多くあることを再認識いたしました。

新たに教育現場へ押し寄せた科学技術の進歩の波としては、2022 年 11 月に世に出てきた対話型 AI、チャット GPT が挙げられます。まだまだ良い影響と悪い影響の双方が入り乱れた状況ではありますが、試しに、本編集後記を書かせてみようと思いました！結果は・・・、まだ本センター編集後記に関しては人間の手が必要であることがわかりました。しかしながら、確実に我々のもとへと迫っており、来年の今頃には、この技術がどこまで進化しているのかの想像すら難しく感じる次第です。

最後になりましたが、本報告書を作成するにあたりお忙しい中、ご協力いただいた皆様、本年度にて本センターを離れる参画教員の皆様方にはこれまでのご尽力にも併せて感謝申し上げます。

(米津記)